

令和3年度大雪山国立公園連絡協議会

表大雪地域登山道維持管理部会（第2回）議事録

■日時：令和3年6月17日（木）13：00～16：00

■会場：東川町役場大会議室

■出席者：資料のとおり（上川中部森林管理署 主任森林整備官 岩館氏 欠席）

■概要

1. 開会

■大雪山国立公園管理事務所長 広野所長

- ・本格的なシーズン前のお忙しいところ参加いただき感謝する。昨年度、大雪山国立公園連絡協議会が改組され、その下に表大雪と東大雪の二つの登山道維持管理部会がある。第1回の部会では、登山道荒廃の課題解決の場としてスタートし、登山道の未執行区間の解消を目標として協議をしていく流れができてきた。今後の部会では、具体的な登山道の維持管理をどのように解決していけるか提案し具体的な事例をお示しし、皆様から様々なご意見、議論を展開していければ良い。登山道の課題解決の他に、老朽化した標識についても建設的なご意見をお願いしたい。
- ・白雲岳周辺登山道の協力金収受の取組が上川地区登山道維持管理等連絡協議会が主体的になって開始される。関係者が関わり試行が始まる一つの例として参考にさせていただき、今回議事で提案する美瑛富士線についてどう考えられるかご意見をいただきたい。

2. 議事

(1) 登山道荒廃の課題解決に向けて

事務局より資料1-1説明

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・美瑛の路線は美瑛山岳会さん中心にやられていると思うので、民間目線で現状をお知らせいただきたい。

■美瑛山岳会

- ・正直、美瑛富士線6kmはかなり手をかけている。森林管理署との協定の中で、修理がほとんどで、大雪山で補修をしている団体もたくさんいるが、馴染みがないと思うが、補修をしている人は気づいていると思うが幼稚な整備。我々は崩壊を防いだり、植物を再生されるとかそういうことには至っていない。登山者が歩きやすい

モノを作っている見方をされると思う。非常に泥濘になって登山者が靴の汚れないところを歩いている。昔から見ると登山道が広がっている。我々もどう補修してよいか、協定書の中で軽微な工作物をたくさん作っているの、これらを将来どうしていくのか、元に戻すことはできるのだろうかと思う。美瑛岳線や十勝岳も災害の山なのでケーブルを入れるのに十勝岳温泉に一回掘削をして埋め戻している。大きな雨が降られると、ケーブルが飛び出し、避難小屋より下は疲れるから歩きたくないと言われる。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・美瑛山岳会で色々な手を入れていただいているがそれを将来どうしていくのか、将来放置化、異物化していくのは誰も望んでいないので、この路線は高いところに関しては利用者数はそんなに多くないが、保全対策ランクはA、従来から自然保護協会の方々からはグレード作ったのはいいが、維持管理や補修作業に物凄い力を入れていて高山植物等の保護が弱いと批判を受けている。利用者数が多くないところでも、手は入れなきゃいけないので部会としては高山植物を守っていく、配慮しながら考えている姿勢をきちんと打ち出す、部会でもそういう議論はしているところを確認した上でやらないと世の中から批判をされかねない。そこを皆さんで議論しながら進めなければならないと思う。皆さんの間で認識共有をしていると言うことで話を進める。実際に作業するときにも長期に渡ってどう作業していくのか、保全対策ランクに応じてやっていることをベースとして持つておく必要はある。

■事務局

- ・利用や登山道としての話をしがちだが、保全の仕方までは議論できていないのでどういうやり方をすれば保全につながる登山道の整備になるのか、皆さんの中でも共通認識を持っていただいてどの場所からどういう整備をしていくかもご検討いただきたい。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・現状は多くの方が整備されているし、利用者は1000人でそんなに多くはないが、侵食が加速している。自分も関わったことがあるのでよくわかる。復元の量と侵食のバランスが崩れているのが現状。望まれる状況は、侵食に対して、保全がイーブンになること。侵食量と保全量のバランスが拮抗する状態を作る言葉を盛り込めば具体的になると思う。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・聞いていて難しい問題だと思った。関係者によって登山道補修が行われているとこ

ろもある。保全対策ランクと管理水準を定期的に見直し、バランスが取れた状態まで戻せたところと、次にやるべきところを見極める必要がある。これぐらいの状況になっているところはすごくたくさんある。優先度を決めるときに、登山者数だけを1つの基準にして良いのか？登山者数もあるが、この場合はエスケープルートの意味もある。色んな要素を組み合わせて考える必要がある。現行の保全対策ランクを決めたときはそこまでの話はしていかなかったと思う。今回は美瑛富士一箇所だけが例に挙げられているが、他にも沢山あるところを並べて見ていく必要がある。

■山のトイレを考える会

- ・この路線では美瑛山岳会さんをはじめ、色々な方々にお世話になって避難小屋や携帯トイレブースの維持管理を協力させていただいている。登山道の問題提起があった整備やトイレ道などの復元というところまでは、まだ具体的な対応や対策をイメージするまでに至ってない。今後どうしていくか、予算等の面も厳しいのでどういう点で対応ができるかこれから皆さんと具体的に考えていかないといけない現状だと思う。

■事務局

- ・今回美瑛富士線歩道を紹介したが、他の路線でも早急に補修・維持管理しなければならないところがある。部会としてどこの路線のどの場所を最優先してやるべきかの議論も必要であり、この美瑛富士だけ頑張っていくかではなく他の路線も目を配りながら、現場として優先順位が非常に高い補修が待たなしのところを集中的に議論、どういう仕組みで解決できるのか、色々な方法があると思う。まずは多くの方が関わっている今回の路線をあげたが、侵食レベルが高く、年々侵食が加速していく場所にどう手を打てるのか議論が必要。部会だけで解決策ではなく、部会での考え方・方向性を考えて、個別の調整で実際の解決策が見いだされると思う。進め方、方向性の意思統一が出来ると有難い。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・多くの御意見をいただきとても良かったと思う。今回、美瑛富士線を環境省が取り上げて下さったことが全体的なやり方としてはすごくいいと思う。表大雪の中で保全対策ランクAがそんなにない中で、既に北海岳～白雲避難小屋の間は既に着手しているが、美瑛富士線は2番目に位置付けて、ここは利用者が多くないが、バランスが崩れているので、将来的には変えていく議論をしなければならないが、我々が考えていくのがここを何とかしなきゃいけないというのは、やり方としてはいいと思う。先ほども言ったが批判をされないような形で進めるために持っていくには、今の話を盛り込んだ上で進めていくことであれば多くの方が納得され

と思う。

■北海道山岳整備、一般社団法人 大雪山山守隊

- ・例えば、多くの企業の方や個人も含めて登山道整備をやってほしいという依頼が自分の所に来る。お金も渡すという方々もいる。人手もあり、技術研修と称して、こっちでやれるところはないか、と言ってくれる団体もいる。担い手はいると言えはいるし、お金も莫大ではないが、ボランティアを運営するくらいにはなる。ここは管理者不在で、ここをやりたいです、と言ったときどういう手順で出来るのか。本来は国立公園内は行政が隅々まで管理していただけたらありがたいし、そのために個人の税金が多少増えても仕方ないと個人的に思っているが、やりたいと言ってもそこが管理者不在であれば、まずは行政が、管理者になってからと言われるのが多いと聞いている。やる気、担い手、資金がある場合、どうしたら良いか。

■事務局

- ・実際に補修作業が出来るにもかかわらず現地に手が出しにくいということは、制度的な手続きが必要ということがネックになっていると思う。前回からも言っているが1つの考え方として、国立公園の公園事業の路線としてしっかり主体管理者を設定することがやりやすさに繋がる方向だと思っている。特に、何かの石組みや丸太を入れたり工作物を作るのはその後の維持管理が柔軟にできるように事業執行の形を取るのが現状では一番ベスト。いずれかの行政が事業執行をしていくのがいいが、まだまだ事業執行に対して全ての自治体がどういう仕組みで何がメリットなのかご理解いただいているとは限らないので、そこを何とか突破していくために地元にある自治体含めて、誰が主体になり得るのかしっかり話し合いをしながら見出していく必要がある。今回はたまたま美瑛富士線に対して美瑛町が参加していただいているが、今できる状況に対してどう対処できるか具体的に話しができればありがたい。

■北海道山岳整備、一般社団法人 大雪山山守隊

- ・例えば、この場所であれば美瑛町が管理者になっていただければ解決するというのであれば、民間がやるべきことは何になるか。登山者の署名を集めて美瑛町に持って行くとか、ここにいる民間ができることのアイディアがストップしてしまう。管理者になる人がいない、そこを何とかしてください、と民間に言われたところで、大きな民間であれば、(株)りんゆう観光さんのように一部の事業執行者になれるかもしれないが、現状ではそこが動かない限り民間としては動きようがない気がする。

■事務局

- ・考え方としては事業執行する自治体・行政機関があり、その機関から管理を依頼され動ける民間団体が補修活動をされる役割分担、繋がりがあり、実際にそういう体制でやられているところもある。ある程度、行政機関に何が足りないのか説明したり、我々が国立公園を担っていく中でやるべきことで、行政機関同士の調整はやらなきゃいけないこと。これまで事業執行をされたことが無い自治体に対し、何が新たな負担になるのか不安に思われることがあると思うので、そういう話を具体的にした上で実際の管理、補修は今仰ったとおり民間の力で十分にやっていただけることも含めて、全体の話として自治体の方にはそういうご説明をして聞いていただけるお話なのか詰めていく必要がある。

■NPO法人大雪山自然学校

- ・事業執行がある場合と無い場合とできることとできないことがよくわかっていないが、事業執行がされるまでの間にも崩れ続けているので、美瑛山岳会さんが補修をやっても追いついていないということだと思う。例えば、登山者に登山口で子砂利を採取できる場所を見つけて、登山者に1kgずつでも持って行ってもらって、千人いれば千kgになるし、誰かが流れ止めを作っておかなければならないと思うが、事業執行にこだわらず、やらなきゃいけない状態だと思う。

■事務局

- ・事業執行すると何が違うのかは、国立公園の事業執行は登山の利用の為に必要な施設に対して必要なものとして認める考え方をしているので、それがないと工作物を作るのは本来できない。登山道や植生保護のための管理行為となる。それが国有林になっているので、事業執行する人は国有林からお借りして、お借りした場所をしっかりと管理するという考え方となるので、自然公園法として毎回申請が不要となるなど、管理がしやすくなるという大きなメリットがある。

■美瑛町役場

- ・美瑛富士の観光面を申し上げると、どの登山道に行っているお客さんかというカウントが宿泊者や観光者として、取れていないのが現状。直接、朝から車で行く人もいるし、宿泊されている人もいる。今は1000人程度の利用があるというが、登山という部分に関しての観光人口は白金温泉街の観光人口と比例すると思うので、温泉街の観光振興とあわせていくのが、基本的な考え方になるという理解はしている。

■事務局

- ・人手はある、資金はある、となったとき、管理者として美瑛町としては協力のお考えはあるか？

■美瑛町役場

- ・現状の答えは持ち合わせていないが、山に行かれる方が色んな技術や力、お金があるというのは有り難いお話だとは思う。

■北海道山岳整備、一般社団法人 大雪山山守隊

- ・事業執行者になるデメリットは何か？こういう責任が生じる、と言うのを教えて欲しい。

■事務局

- ・管理主体になるのは事故が起きた時の責任主体となる。一つの行政機関として管理が出来るのかどうか。また、土地をお借りするので、事務的なご負担、仕事が増えていくのがご心配される部分がある。あとはメリットが何かという話が主となる。メリットが感じられない、負担だけが増えていくご懸念があると思う。
- ・メリット、デメリットと言う切り口でいいかわからないが、事業執行をしようとしたとき、白金温泉から美瑛富士まで借りる場合、正確に何m幅で何m借りるといった、測量の事務的な費用が必要になる。自治体が測量費用やメンテナンス費用を毎年の予算に計上するので、事務的な負担は生じてくる。逆に言えば、町として全面として売り出していく、人をお呼びしたいというのであれば、議会を通して町民の税金を使っていくという対外的な説明が、東・表関わらず発生していく。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・事業執行の話になっているが、実際事業執行されている登山道は半分くらい。前回の部会や協議会でも事業執行区間を出来るだけ増やしたいという話があったが、事業執行されるのは時間がかかるし、全部が全部事業執行されるかわからないので、その中で短期的にできることや、ほんの少しの補修でも事業執行されないといけないのか等、そこがわかりにくいし、美瑛富士線は山岳会でも補修されているので、そこがハードルになると話が進まない。それがはじめに決まらないと話が決まらないものなのか。

■事務局

- ・環境省の自然公園法の事業執行という面もあるが、土地が国有林なので、事業執行しないと補修してはいけないか。

■上川中部森林管理署

- ・土地の貸付関係の担当ではないのでわからないが、一般的に今言われているように、きちんとした整備をしていくのであれば貸付の申請をしていただいて貸付契約を

する。相手先によっては有料、無料がある。国有林内は保安林になっているので、国立公園内もそうだが石一つ持ち出してはならないことになっている。従って路面に手を掛けるのは保安林上の作業行為になる。地表面以上のササ刈り程度の作業については不要。

■事務局

- ・保安林内のこれ以上待てないような現場の状況があり、放置することによって保安林の植生基盤の侵食が進行してしまうことを考えて石をなおす場合でも同じように作業行為になるのか。柔軟に対応していただけると有り難い。

■上川中部森林管理署

- ・緊急的なものにはあるかもしれないが、国有林内で作業行為を取るのは、森林管理署が判断・許可をするのではなく、北海道知事の許可となっている。なので国有林の立場からは申し上げられない。

■NPO法人かむい

- ・昨年、ササ刈りで登山道 100km くらい歩いたときにオプタテシケに行く道として美瑛富士線を使わせてもらった。その時にササ刈りは何年かに一度やっているように見えたが、ササ刈りをするためには草刈り機を背負っていくが、周りの木に草刈り機が引っかかってしまい、上をやるより、こっちが先だったねという話をしてきた。登山道自体はそんなに酷いと思っていない。結構管理されていると感じた。途中水切りがあるが、詰まりにより水が溢れかえっているようだった。関係者が歩くときに、その詰まりをとるだけで状況が変わると思ったので、関係者などでそういう話を広げてもらうだけで緩和されると思った。

■事務局

- ・本日、ご意見いただいた自然保護団体との保全をするための整備や侵食に対して植生復元の量が適正になることを取り入れていきたいと思うし、前提としては事業執行があつてこそその登山道整備や保全を進めていきたいが、植生復元や荒廃対策ランク A を待ってやるのは皆さん違和感を持っているようだったので、内部でどんなやり方があるのか確認して、第三回の部会で詰まった話を皆様にできればいい。

(2) 表大雪地域誘導標識の現状と老朽化等への対応について

■上川総合振興局環境生活課

- ・事業執行者という立場で説明する。昨年 12 月部会でご説明したため、標識の現状を大方は分かっていると思う。本来であれば皆様の意見を冬に聞いておけばよか

ったがそこまで至らず、お詫び申し上げる。標識の改修については登山者の遭難防止の観点から課題と感じており、今年度大雪山、特に登山者の多い表大雪地域の看板の改修をするために、当初から具体的な提案をしていただいている北海道山岳整備さんに委託し、まずは試行的に実施することにした。標識改修の在り方に関しては色々なご意見をいただいているが、抜本的な対策として根本的な標柱も含めて標識全体の仕様や表示内容の再検討をして設置者に関わらず、統一的な再整備をうたっていくことが望ましいと考えている。中長期的にはそういう視点から標識類の統一的な更新が必要と考えており、そのための検討を環境省や関係者と協議しながら検討をしていきたい。しかし現段階で大雪山全体の一斉更新の具体的なスケジュールは示すことはできないので、まずは既存の標柱を生かしたまま表示板面のみ更新し、今回の改修にあたっては北海道山岳整備に委託し実施する。既にいくつかいただいた意見でご指摘いただいた通り、発注者及び登山道事業執行者として委託先である北海道山岳整備に丸投げにするのではなく、様々な意見調整を行いながら、今年度は10カ所程度具体的な改修を予定している。委託先に丸投げし、責任を放棄するようなことは考えておりませんので、皆さんご協力をよろしくお願いします。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

・率直に発言させてもらうが、これは批判ではない。誘導標識が長い間立ちっぱなしで持ってくれたと思う。現状の誘導標識は、元気に建っているがその内容に関しては皆さんご存じの通り、消えかかっているものがほとんどで、その補修としてはラミネートがメインで行われており、ラミネートに関してはパークボランティアの方や職員が手弁当で打ち直しが毎年どこかで行われている。正直、大雪山の麓に暮らす地元民としてはこの状態は恥ずかしくて仕方ない。大雪山の誘導標識は国立公園が正しく管理されているかという「顔」。それがラミネートでの補修でいつまで建っても治らないというのは本当に心苦しくて、何か自分達でできることはないかと考えて福井さんに相談して、管理させてもらっている高原温泉の二箇所の看板を試しにやってみてその結果を踏まえて皆さんと協議をしながら、環境省も整備指針を決めているが、どちらかという民間や登山者の意見を反映されているとは思えなかった。これを機に皆さんの意見を聞きつつ標識や整備の方法を募集させていただいた。おかげさまで資料には20名近くの見解をいただいた。これは本当にどの意見もその通りと思うくらい、自分としては有り難い意見だった。ただ、その人の立ち位置から見たらこうしたら良いという意見だと思うので、今後はそのすり合わせが必要だと思う。この意見書は今読み上げると時間がないが、良い意見が詰まっているので是非見ていただきたい。ここから自分なりに考えて、標識案を6案考えてみた。自分が考えたらこうなるが、これが正しいとは全く思っていない。管理者の上川総合振興局と話し合いながら進めていくが、まだまだご意見はいただきたい。

みなさんのご意見をピックアップするが、距離表示が要らない、時間があるという意見が結構ある。自分は距離で考えてしまう人間なので、そう言われて「へえー」と思ったが、初心者やはじめて来た人には距離は無意味だという。あとはできるだけシンプルにして欲しいという意見もあった。はじめは地図を入れた方が良いと思っていたが、地図じゃなくて概念図が良い、あるいは概念図もいらぬという意見もあった。デザインの統一化をしてくれと言う意見も多々あった。ただ、デザインの統一化というのはどの標識も同じにしてくれという意味ではなく、例えばスタート地点には地図が載っている看板があるが、次の看板では地図がなかったり、次には地図があったり、デザインと所々にある施設を統一する、という意味合いだと思う。これは大雪山全域で考えるべきこと。大雪山の中でも携帯電波が通じないところがなくなっていったら標識に求められることが変わっていくと思う。これまでと同じ、数十年のスパンではなく、数年でどんどん変わっていく。今どのデザインにするかと言うよりも、その時代に合わせた、できるだけ標記を変えていける、P D C Aができるようにする。ここが着地点ではなく、出発点で色々な方々の意見を聞ける場所になると良い大雪山の管理ができると思う。皆さんの意見をできるだけ反映しながら決めていきたいと思う。ちなみに、標識を一基改修するには資材費だけであれば一万円もかからない。これはアルミ複合版と素材で、サイズを指定すると高くなるが、数千円でできる。それとアクリル板を使う。5年間くらい持てば、次の形が見えてくると思う。昨年度、高原温泉で設置したものにもたくさんの意見をいただいたが、ここはすぐに交換できるようにしてあるので、それを踏まえて今年も交換したい。お金はかからない割には恥ずかしくない標識に持って行ければ良い。

■ N P O 法人大雪山自然学校

- ・ 施工法はどうするのか？既存の木の上から看板をビスで止めるのか。木を取って、アクリル板をつけるのか。現場合わせになるのか。

■ 北海道山岳整備、一般社団法人 大雪山山守隊

- ・ 木はそのまま使い、ビスでとめる。同じサイズの木もあれば、違うサイズもある。一度現場に行ってサイズを測って作り上げて持って行く。資材代はかからないが、人件費はかかる。

■ N P O 法人大雪山自然学校

- ・ 距離数がいらぬという意見が多かったので仕方ないかもしれないが、自分がわからないと困る。

■ 北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・ 正直、自分もそう思うが、山に慣れている人は標識自体いらぬ。ただ、本当に標

識が欲しい人が何を求められているのか考えないといけない。本当は標高も標記したいが、できるだけシンプルにと言われるので、何を減らすか、時間を書いてどこかに距離を書けないか等、色んなことを考えないといけない。玄人からは距離については何も言われなかったが、特に海外の人には時間が必要。

■ N P O 法人大雪山自然学校

- ・ 例えば、この見やすいところを書いてあるには時間で、地図には距離も載っていたり、情報を分けるとよいと思う。

■ 北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・ 自分もそう思う。ただ、自分をはじめは地図が欲しいと思ってやってきたが、標記と入れないシンプルなパターンにしたときの標識、デザインが良いと思った。今まで距離表示だったものを時間に戻すのは怖いけど、試せるなら試したい。登山マップには距離表示はあまりなく、時間表示。登山者は時間を見ているのだと思う。これは最後の最後で決めていく。

■ N P O 法人大雪山自然学校

- ・ これはあくまでビジター向けなのか。

■ 北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・ そのとおり。

■ 層雲峡ビジターセンター

- ・ ビジターセンターでご案内するときは、素人・玄人関係なく、普遍的なものを紹介する。時間的なものは皆さんまちまちだが、距離が一番しっかりしたもので、距離を削るのはどうかと思う。変わらないものはしっかり表示しないと行かない。分岐を含めた標記ならいいが、地図に表記されたものは、アイヌ語地名が含まれたものは説明があるといいかも。標識看板は知らない人や初心者には安心材料になるので統一された標記となるのがいいし、自分がどの場所にいるか安心感が大事。地図標識に安心が詰まっているのは大事だと思う。シンプルに考えるのが一番いいと思う。

■ 山樂舎 B E A R

- ・ 指導標を見るのは初心者や素人の人。私は指導標を見る事は無いので、残雪期で怪しい場合は地図を見て標高を見る。指導標を当てにする人たちのレベルに合わせるなら、5か6。時間はあまり好きじゃないが、百歩譲って時間を書くなら距離も書くべき。一番下のレベルの登山者に合わせるべき。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・なるべくシンプルにするために、時間表示を優先するのであれば、私は距離は絶対必要だと思っているが、時間を生かすものならば、真ん中の地図を生かすべきで、地図にスケールを入れればあと何キロあるかわかる。それを入れるのであれば、百歩譲って距離はいれなくていい。意見の中に結構多くの方が書いてあり、私もそう思い書かなかったが、QRコードは有効なので、地点だけじゃなく解説も含められるし、内容はいかようにもあとで変えられるので、将来的に電波が届くようになったらQRコードが対応できるようになると良い。また番号を登山口から何km進んだのか番号が書いてあると、例えばA-4.9だとすれば、登山口から4.9km進んだとわかるので、そういうやり方も併記できるのであれば、併記して欲しい。

■NPOアースウィンド

- ・標識は距離数表示の方がいいと思うが、夏にこういう標識を見るのは初心者なので、わかりやすいと言う意見が多いと思う。登山者が集中する、旭岳往復のニセ金庫岩付近や裾合平付近にこういう標識があるとわかりやすくなると思う。旭岳9合目から山頂に至る道は、金庫岩とニセ金庫岩の間に少し凹んだ道があり、その凹地に雪があると入って言うってしまう人も多いので、凹地に入らないよう2,3箇所にしつこく下山方向を示してやらないとニセ金庫岩に誘導されやすい。アースウィンドでもこれを防ごうと思って、ロープを設置してくださいと環境省に要望し、パークボランティアが中心になってやってくれるようになり、かなり良くなった。霧の中だと標識やロープが見れないことも多いが、ニセ金庫岩にどんどん入って行ってしまふこともあるので、遭難者が多いところは標識は重点地域として複数設置してほしい。春に裾合平に行くと雪原なので、ここでも迷われている。ここはトイレ問題もあって、集中して人が訪れるところは、休み場はあってもトイレがなく、隠れるところがなくてあたふたする。裾合平ケルンを分岐にして行く方向がわかれば良いが、あそこで説明板がもう少し親切であればいいと思う。あとは黒岳から北海岳途中の遭難碑のある地点は間違っ踏み込んでしまふ人がいる。大きい標識でなくてもいいので、「こちらは山頂ではありません」というのがわかるのがあとと良い。

■公益社団法人日本山岳会北海道支部

- ・トムラウシに登ったときに、コマドリ沢にコマドリ沢分岐と書いてある。分岐は別れ道の意味で、コマドリ沢出合いが正しい。毎回通るときに違和感があり、別の道があると勘違いする人もいると思うので、正しい標識の表記が必要なので、新たに直すときは正しくしてほしい。

■事務局

- ・距離と時間について、公共標識の技術指針というものがあり、一般的に使用されているものだが、誘導標識に表示すべきものは距離で、必要に応じて所要時間も入れることになっている。さきほどから何人かのご意見にあるように季節、天候、体力に左右される情報を基本にするよりは、客観的な距離を明記した上で、必要に応じて時間を入れるのが考えやすいと思う。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・今回の意見で、時間の必要性を一般の方が求めているのは分かったので時間も基準の一つとしてこれからは考えるべきだと思う。北海道警察旭川東警察署からの御意見でGPS情報を記載して欲しいとリクエストがあった。安全管理の面としては、地点名、番号もあると良いが、安全管理としてGPS情報があると助かる。今の遭難救助の出動要請は携帯電話での救助要請がほとんどであるという。そのときの情報の出し方として、標識に番号などが記載されていると助かると言われている。

■NPO法人大雪山自然学校

- ・どんなものであっても迷う人は迷う。地図を持ってないと、標識があっても迷うので、地図は持ってもらって言うのは当たり前にして、ここはこういうものだと決めて普遍的な情報を載せる標識を作るのが良いと思う。一般の目線に合わせすぎても、大雪山のレベルを知らずに来てしまう人が増えるだけ。

(ここで一般登山客の意見として、傍聴参加者に対し事務局側から発言を求める)

■傍聴参加者 イラストレーター (白雲避難小屋管理人)

- ・大雪山は日本で唯一人工的なものが無い素晴らしい山域だと思う。私のお客さんも本州のお客さんが多いので、北海道に憧れを持ってくるので、ガッカリしてほしくない。私は時間を優先に表示して欲しいと意見を書いた。登山地図には時間表記されている。距離だと街だと4kmを何分で歩くかピンとこない人が多い。ここから40分て書いた方がイメージしやすい。時間で説明する事が多い。海外の国立公園はどちらも書いてある方が多いと思う。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・海外に向けた情報発信をしているロバート・トムソンさんが事務局のHokaido Wildsも、距離は全く無意味で、一般的には時間表示だと意見をもらった。対外的な視点と地域として大雪山をどうしていきたいかよく考えてやらないと一生懸命作っても周りから見られていない。今回はラミネートを何とかし

たいという思いではじめたが、直すからにはそういう意見をしっかり取り入れつつ、しっかりとデザインをとってやるべきだと思う。

■ NPO法人大雪山自然学校

- ・登山地図には時間が書いてあると仰るが、地図は見たら距離はわかるから、そこから読み取れない時間を参考として書いているのだと思うが、距離は当たり前わかるべきもの。参考タイムは人によって違って、参考にならない人もいる。私は参考タイムを半分くらいで歩かし、そういう人を無視していると思う。やっぱり距離が欲しい。

■ NPO法人かむい

- ・私はガイドもやっているのですが、お客さんには口頭では時間を伝えることが多いが、標識に書くとなると状況が変わってくると思う。あと30分と書いてあるのに、30分で到着しなかったら逆にクレームが来ると思う。実際は距離が書いてあった上で、細かい地形図ではなく、概念図程度で良く、この時間は参考タイムですと注意書きがしてあり、地図の中に何分と書いてあるのが良いと思う。

■大雪山倶楽部

- ・標識については、人によって時間は異なるので、私も距離が良いと思う。さきほどNPOアースウィンドさんがお話していたが、ニセ金庫岩付近に私もロープ張りに行ったことあるが、ロープがあっても結局秋には外さないといけない。9合目カーブ付近と、もう少し下に標識があってもいい。3年前位に遭難者の捜索を依頼され、ニセ金庫岩の下に捜索に入ったが、ニセ金庫岩の下の方は実際に遭難した跡が多数あったので、岩の下に「間違ってます、登り返してください」とか看板があってもいいと思う。標識に番号など表示もあっていい。

■美瑛山岳会

- ・トムラウシ山や十勝岳連峰では、看板の改修はやるのか。

■上川総合振興局環境生活課

- ・今回試行的にやるのは利用者の多いお鉢平周辺を委託という形で行う。今後継続してやるのか、委託という形でやっていくのか、十勝岳周辺はどうしていくのか考えていけないといけないので、今後の課題。最終的には十勝岳の方も含めて、大雪山全体で直していきたい。

■美瑛山岳会

- ・情報表示が話題になっているが、十勝岳連峰は標識が多すぎる。遭難防止のため

ほとんどが美瑛町が建てたもので、分岐、十勝岳から美瑛岳、鋸岳の20カ所くらいある。それだけ標識を建てていると言うことは、それだけ遭難事故が頻発している。救助された人は標識を一本見落としたことが多い。それと併せて美瑛町が建てた標識は傷んできている。遭難予防には必要とされているとは思いますが、新たに町が作るとお金も人手もいる。この時期に合わせて、避難小屋の下の白銀荘分岐や美瑛岳分岐のみ残して、将来的に撤収しようとしている。十勝岳本峰も縦走線も事業執行されている北海道と協議したいと思うが最低必要な分だけ残して見苦しい部分は取りたいと思っている。

■上川総合振興局環境生活課

- ・十勝岳周辺は迷いやすい場所なので標識については今回とは別の話として相談させてもらいたい。

■事務局

- ・標識再整備について、13ページに記載されている老朽化した標識の中で、白雲岳避難小屋から五色岳の区間でNO.23、26、27の標識と木道の再整備の設計業務を今年度行う。できるだけ標識の統一化を図れるように考えている。

■上川総合振興局環境生活課

- ・距離と時間どちらを取るのか、両方併記するのか決定しなければならない。地図もつけるのか、地形図なのか概念図なのか、最終的にはみなさんの意見は聞くが全ての意見を取り入れることはできないので、ご承知置きください。

3. 報告事項

(1) 令和3年度大雪山国立公園連絡協議会総会及び登山道維持管理部会の取組事項について

事務局より資料2-1以降について説明

(2) 新型コロナウイルスへの対応を含む各団体の活動予定について

※資料を出していない団体、資料の補足をしたい団体のみ取組事項のご説明をいただく。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・今季、高原温泉ヒグマ情報センターと白雲岳避難小屋の管理を担当させていただく。ヒグマ情報センターは6月19日から始まる。登山道整備、登山者と協力した取組を行う。去年64万円の募金が集まり、これをどう使っていくかは上川町、環境省、北海道と考えながらやっていくが、64万もあるとかなりの部分が直るが、資材代としてしか使えない。去年、登山者には「高原温泉での登山道整

備で使いたいのので、募金をよろしく願います」と呼びかけたので今期はここでしか使えないが、今期から呼びかけのときには「高原温泉だけでなく周辺登山道の整備に使いたいのので募金をよろしく願います」と呼びかけたいと思っている。昨年同様集まる可能性もあるし、どう使うかが重要なことになる。

- ・ヒグマ情報センターは紅葉時期のみ携帯トイレブースを設置していたが、巡視は毎日しなければならず、女性の巡視員もいるので、トイレをつけて欲しいと要望があり、携帯トイレブースについて環境省と相談し、今期は緑沼と蝦夷沼の2ヶ所に木製のブースを付ける予定。
- ・白雲岳避難小屋の協力金の徴収は6月26日から運用を開始する。これまで管理人は1人のみ在中だったが、今期から管理人は3名とし、2名は避難小屋に在中し、1人は登山道管理をしたり、1人は登山者と会話をしたり、普及の努力をしてみようと思う。定員は50数名から25名とコロナ対策で半減している。今季、小屋が新しくなり、SNS等で快適だと話題になり始めた。定員が簡単にオーバーする可能性がある。テンドの水が多く、海の日までにテンドの水が完全に乾くかわからないため、それまではテンドが混雑する可能性があるため、関係者間と協議し、HPを作り、混雑カレンダー以外に、宿泊申告カレンダーを作成し、登山者からこの日に宿泊する申告してもらい、それを入力し、この日は何人泊まる予定というのをHP上で登山者が見えるようにし、混雑しているときは別の日にずらしてもらおう。
- ・登山道補修も併せて行う。場所は調整中、随時発信していく。
- ・登山者からの登山道整備のための協力金を小屋で徴収する。本来は登山口で協力金を募集するならわかりやすいが、小屋で徴収する。泊った人だけでなく、通った人からも徴収する。「お前ここ通ったんだから金よこせ」と捉えかねないデリケートな問題なので、管理人等々がきちんと説明して、無理せず徴収しようとしている。関係者の皆さんにもここでお金をいただいて周辺登山道が良くなっていくのを登山者に伝えるのが目的だと思うので、みなさんからもご協力よろしく願いたい。これは自分たちだけじゃなく、色々な方々に「何やってんのあれは」と聞かれることもあると思うので、そのときに「なんか変なこと始めたんだよ」と言うよりは「協力してください」という風に皆さんからも言ってもらいたい。もちろん反論などあった場合は、対応していきたいと管理人、行政共々考えていると思うので、よろしく願います。ただ課題もあり、登山者から徴収するお金は集めることも使うことも限定的で行うので、これから大雪山全域でやっていく場合、白雲岳周辺登山道のみ、そこでお金が集まったらその周辺でしか使えない。これをいろんな場所でやり始めた場合、格差が起こる。旭岳や銀泉台、黒岳はたくさんお金が集まるが、人のあまり知られていない場所では道も大きく崩れ、お金も集まらない状況があると思うので、登山者から集めて使うのを民間行政で連携した大きな民間団体が必要だと思うので、それを考えていきたい。協

力金の金額は倍額で小屋泊は 1000 円が 2000 円、テンバは 300 円が 500 円、それ以外に登山道の協力金として 1000 円いただくことになるので、小屋宿泊登山者は 1000 円だったのがいきなり 3000 円に変わる。本州の山小屋と比べると安い
が、3000 円に見合った周辺環境整備が必要。

- ・大雪山山守隊ではいくつか登山道補修イベントを考えているが、コロナなので大きく人を集められないため、限定的に人を集めながら、登山者や企業を絡んだ整備やイベントをやりたい。その都度、宣伝するので協力できる方はよろしく願いしたい。

■ NPOアースウィンド

- ・去年、大雪山国立公園管理事務所長（前所長）にカナダの事例の救急無線の配置についてビデオを紹介した。目的は高原温泉沼巡りの救急無線の配置。今のところヒグマの事故は無いが、人が入り込むことを考えると救急無線の配置が必要だと思われる。環境省への要望。

■ NPO法人かむい

- ・先ほど事務局より高根ヶ原の木道整備の話があったが、具体的にどこを整備するのか。

■事務局

- ・高根ヶ原分岐から五色岳までに至る縦走線の木道が必要なところの設計を検討する。昨年度までにだいたいこの辺りに必要と言う目処は立てているが、具体的には現地を見た上で決定していく。

■ NPO法人かむい

- ・既存である平ヶ岳付近の木道は腐って使い物にならない木道がかなりある。忠別沼付近も木道はあるが、あの辺りはそんなに痛んでいない。それ以外の場所で木道が必要な場所は私には感じられない。議論が必要。

■事務局

- ・工作物を入れる区間は、必要性を見極めて、必要最小限に整備する。

■山のトイレを考える会

- ・裏旭野営指定地で携帯トイレブース設置検討に向けた登山者に対するアンケート調査を行う。大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言の取組みを考えれば、表大雪で野営指定地なのに常設トイレや携帯トイレブースがないのは色々な意見や事情があり、今は何もない。そのために登山道維持管理部会で議題に取り上げていただいて、

みなさんのご意見を聞きたいという希望を持っている。今回は議題にできる資料の準備もできていないので次回の第3回以降にそういうことができれば良いと希望する。アンケート調査を実施するのは当会だけではできず、賛同いただける北海道内山岳10団体で協力し、やろうと思っている。この部会の構成団体でも賛同していただいたり協力していただけるところもある。7月上旬から9月中旬まで、アンケートデータを取って次回までに公表してお話できるようにしたい。

■NPOアースウィンド

- ・リサーチ登山花ボランティアの温暖化データ収集の調査員について、今年から特別保護地域に入る調査員の増加の許可をもらい、調査地が4箇所ある中の赤岳第4雪渓は、高山植物が生えているところではなく、水が流れて砂地になるところまでは、ロープをまたいで入っていいと許可を貰ったので、もしロープをまたいで入っている人を見かけた場合は、腕章で調査員であることを確認して貰いたい。決して許可なく入っているわけではないし、ここまで20年データを取り貯めているので、広報する。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・さきほどご紹介していただいたが、アンケート調査を皆さんにお願いしているが、今日まで16名からWebで回答をいただいている。どの行政が、誰がどんなアンケート結果だったか分析はせず、皆さんが心配している場所や取組として足りない場所を把握するのが第一の目的。それぞれの団体の代表としての意見を集めているわけではないので、それぞれの場所から複数人が答えていただいても構わない。是非ご回答お願いしたい。郵便で送って欲しいところには郵送させていただくので、大雪山国立公園管理事務所の畠山さんか私まで連絡が欲しい。
- ・白雲岳での協力金や高原温泉沼巡りコースでの協力金はその場所で使われるという説明があったが、さきほど冒頭にあった美瑛富士の入山者は1000人だが、あの場所で整備をするのも経費がないとき、どこからお金を持ってくるのかという話にも繋がると思う。これは協力金部会でお話しすることかもしれないが、結局集めたお金を多少人が多くいるところ、少なくいるところ、色々あるが登山者は場所は特にこだわってなく、大雪山全体のためになるなら協力金を払う方もいると思う。そういう使い方ができる方法を皆さんで議論していかないといけない。
- ・高根ヶ原の木道はNPO法人かむいさんと同意見で、五色ヶ原に木道を敷いたときに北海道自然保護協会さんをはじめかなりの反発が当時あり、かなり遠くからでも木道が延々と敷かれているのが目立つと言われた。それがあって要らないところに過剰な整備をしないと言うことで大雪山の管理水準ができた。かなり慎重にやっていただきたい。

■NPO法人かむい

- ・赤岳コマクサ平に7月17日～7月27日までテント型携帯トイレブースを試行的に設置する。森林管理署、環境省に許可申請を提出している。今年中にモニタリング、アンケート・植生調査、測量を行う、来年度以降に木材でできた携帯トイレブースを作るのを目指す。かむいが森林管理署に土地借用をする。山のトイレを考える会からもあったが、赤岳回収ボックスを6月26日に設置予定。

■山のトイレを考える会

- ・上川総合振興局環境生活課の資料P40に「忠別、ヒサゴ、カミホロ避難小屋利用実態把握に努める」とは具体的には何をするのか？

■上川総合振興局環境生活課

- ・具体的に明確に決まっているものではない。愛甲先生に相談した時には、100%把握はできないが、以前ノートを置いていて書き込んでもらえれば少なくともその日の利用者数を記入して貰えれば推測する手がかりになるので、ノートを置くなど考えられないかと思う。
- ・カミホロ避難小屋は具体的に来年度再整備が決まっているわけではないが、再整備に向けた実施設計を今年度する。本来はカミホロ避難小屋の利用実態をわかっているべきだが、わかっていない。カミホロに関しては具体的な再整備が上がっているので、利用が多い時期に見にいこうと思う。また、将来的に登山者カウンターのようなものを避難小屋に設置したら参考になる数がわかると思うので、予算の問題もあるので検討できればと思う。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・環境省と一緒にやっていた事業で、スノーモビルによる荷揚げ運搬の事業がある。愛山溪当麻乗越の付近で木道木材をスノーモビルで上げる業務だった。ヘリの荷揚げは予算の関係でできなくなっているので、人力ではボランティアとやっても登山道侵食の方がはるかに早いので、今期3月の数日間で試しに上げたら1トン近く上がっている。ペーパンからは片道10数キロなので、今期はできればそれ以上の資材運搬をそういう形にして、夏は荷揚げはせず施工を増やしていけると思う。これは美瑛山岳会会長など以前やったことある人に聞いたので、今後の荷揚げ運搬の方法として各地で検討してみてはと思う。ただし、スノーモビルが得意な人たちにルートを把握してもらっている。素人がすんなりできるものではない。経験値は必要だが、これからはそういう資材運搬ができれば、少額でも整備ができると思う。

■上川町役場

- ・白雲岳周辺の協力金を進めていきたいので、関係者の皆様におかれても今年度からはじめましたということを経済共有していただきたいのと、ポスターができたなら各登山口に掲示してもらいたいので、協力してもらいたい。よろしくお願いします。
- ・紅葉期、銀泉台と高原温泉の車両規制は今年度も実施したい。例年より1週間遅らせ、9月18日の週から銀泉台線開始について道北バスと協議。決まり次第、HPで広報したい。
- ・沼ノ原登山口にトイレブースを男女1つずつ設置しているが、今年度は1ブース男女兼用の携帯トイレブースにしようとしている。6月下旬に設置予定。

4. その他

→質問・意見等特になし

5. 閉会